

【基礎から学ぶ収納講座-②】

部屋別に収納の工夫を考えよう

現代社会は物に溢れています。生活をする上で必要な物の量はどんどん多くなっており、一昔前に建てられた住宅の一般的な収納容量では到底対応ができません。これから家を建てる方は、事前にしっかりとした収納計画を立てることが大切です。

●玄関

玄関は靴、スリッパ、傘、コートなど狭い空間の割に収納物が多いところです。

1カ所に集中させなくても、コートやスポーツ用品、季節によって使わない靴などは玄関近くの廊下や階段下に納める工夫を。

玄関は「家の顔」とも言われる場所です。

住む人の個性を表現し、好印象を与えるような演出のためにも収納部のデザインには心くばりが必要です。

狭い玄関では、壁面に収納部を設けたり、扉の色や素材も

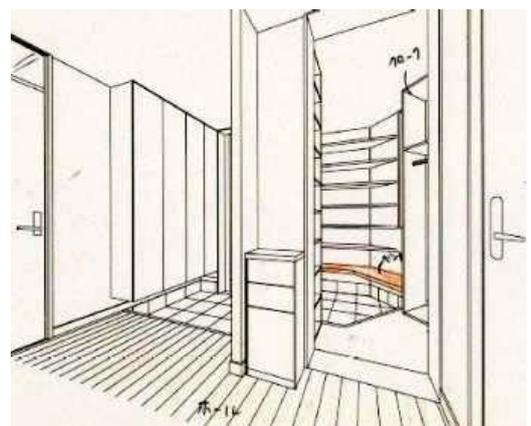
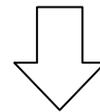
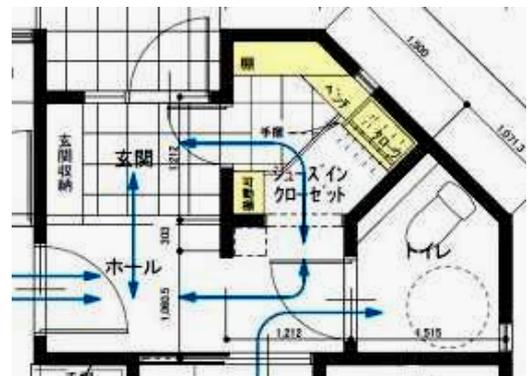
壁と似通ったものにした方が広がりもできます。

また、玄関収納の高さを40cmくらいに低く抑え、上部に花や置物を飾るのも視覚的に広がりを感じられます。

また最近では玄関の土間続きで靴のまま入ることができるシューズインクローゼットと呼ばれる納戸のようなスペースを設けることも多いです。

靴以外にも様々な物が収納

でき、抜群の収納力で、濡れたコートや傘、庭の手入れ道具やアウトドアグッズなどの一時置きもでき、機能性が高まります。



●ダイニング

最近ではダイニングを団欒の場として考える傾向も強くなり、見せる収納が大切な要素になってきました。ガラス器・陶器、コーヒーカップなどは食事を楽しむ意味でも美しく収納したいものです。この場合気をつけたいのが飾り過ぎ。出し入れを考えて、ある程度隙間をつくって納めるようにしましょう。



スプーンやフォーク、テーブルクロスなどは、キッチンにしまうより、ダイニングに収納する方が便利です。

●キッチン

キッチンの収納で、第一に考えたいことは調理の流れに沿った収納レイアウト、そして使用頻度の高い調味料や食器類は使いやすい位置に納めること。作業向上に欠かせない条件です。家電製品は、冷蔵庫や電子レンジなど位置を固定した方がよいものと、炊飯器など固定しない方が自由にできて便利なものがあります。

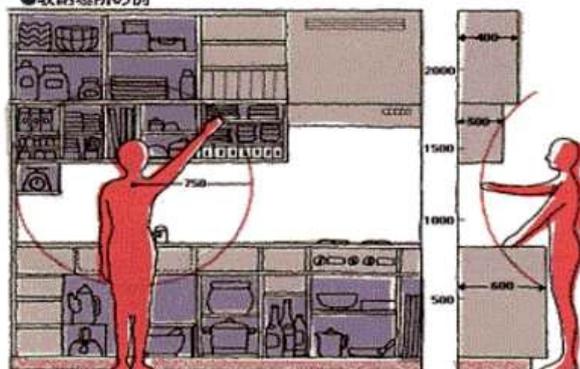
またこれらの家電製品はコンセントの位置によって、定位置が決まってしまう。

出しっ放しにせず、家事デスクやキッチンカウンターの下に、キャスター



付ワゴンと納められるようにしましょう。

●収納場所の例



上段（使用頻度が低く、軽いもの）：客用食器・ピクニック用食器
保存食器・使用頻度の低い鍋など

中・下段／使用頻度が高く壊れやすいもの：常用食器・まな板・計量機・調味料

下段／重いもの、大きいもの、使用頻度の高いもの：鍋・釜・フライパン・調理器具・調理小物・保存食品・米びつ

●リビング

リビングの収納物は多いのですが、お客様を通す場でもあるので、いつも整った状態を保たなければいけません。AV機器やテレビはリビングボードの中に納めた方がすっきりしますし、埃も避けられます。文具などの小物は引出しの中にとまとめ、なるべく隠すことがポイントです。

リビングはソファなどの飾る要素のものが多いので、隠したい物の収納を考えてから、見せる収納を検討していくのがコツです。



●サニタリー

洗面室、トイレ、浴室からなるサニタリースペースは、来客も使うパブリックなスペース。特に整理整頓を心掛け、気持ちのよい空間にしておきたいものです。小物が散乱しがちな洗面台の上は、歯ブラシやコップなど日常よく使うものだけを見せるようにして納め、石鹸や歯磨き粉などのストック品はまとめて扉の中に隠した方がよいでしょう。

●ユーティリティ

家族全員に家事に参加してもらうためには、ユーティリティの収納は、家族の誰もがわかるような分類の収納法にしておくことが大切です。洗濯コーナーには洗剤などの収納スペースが必要ですが、ユーティリティ内に設置する場合はオープンな棚で十分です。

奥行きはあまり必要ありませんが、容器の高さがまちまちなので、棚板は可動式にするとよいでしょう。洗濯物が露出しているのは、いくら独立したユーティリティでも見苦しいもの。

洗濯機の近くにスペースを設け、キャスター付のワゴンを組み込めるようにしておくですっきりします。

また、脱衣室と洗濯コーナーを隣り合わせて配置し、壁の下部にカゴが行き来できるランドリースルーや、1階と2階を結ぶダストシュートの方式を取り入れると、汚れものを持ち運ぶ手間も省けて便利です。家事作業と家事事務・管理のためのカウンターと収納があると重宝します。幅広のカウンターは、アイロンがけ、裁縫、家計簿つけなどの作業が同時にでき、下部は小物の収納に利用できます。

これに吊り戸棚を設ければ、たっぷりの収納量が確保できます。

場所をとるアイロン台は、隙間を工夫したり、置場所を造り付けにするなど、あらかじめプランに組み込みたいもののひとつです。カウンターに組み込まれた可動式のものもあります。



●寝室

洋室の寝室の場合、本来はウォークインクローゼットを設けたり、あるいはコーナーを区切って収納スペースを設けた方が空間に落ち着きをもたらし、美観もよいものです。それだけの広さがないなら、ベッドの下の空きスペースを利用したり、衣類や寝具の一部は別の所に納めたりといった工夫をしましょう。寝室が和室で布団を用いるなら、押入の2分の1を布団、残りの2分の1は衣類などの収納に充てるのが一般的です。



●子ども室



子ども室は、衣類、学習家具、おもちゃ、本、寝具などの収納場所になります。

子どもの成長に伴って、使うものが変化したり部屋の使われ方も変わっていくので、それに対応できる収納の仕方を考えなければいけません。例えばクローゼットの内部の造りを可動式にしたり、デザインは飽きがこないよう抑え目にするようにしましょう。おもちゃはキャスター付きのボックスにするなど、子どもが後片付けをしやすい収納家具を選ぶとよいでしょう。また専用の棚を造って、整理整頓や後片付けなどを習慣付けるのもよい方法です。

墨掛道具 すみかけどうぐ

はかる・しるす道具



日本の木造建築の伝統のかけには、大工の肉体の一部となり、使い馴らされてきた多くの大工道具がありました。代表的な大工道具をとりあげ、解説します。

2 水平・垂直をはかる道具

1. 水平器

木製及び金属製の、正確な面を持つ定規に水準ガラスを縦横2個取付けています。気泡の移動で部材の水平や垂直の正否を調べるのに使用します。



2. 水盛管

長い距離の水平を見るのに使用します。円筒型の缶にホースを取付け、その先にガラス管を付けます。缶に入れた水を地面にはわせたホースからガラス管に導き、その水の高さを結ぶことで、水平を調べることができます。

3. 糸巻

水平器や水盛管で調べた水平のポイント同士を糸で結び、基準となる線をだすのに使用します。

▶ 左より 尻糸巻型、戸車型、若葉型



4. 下げ振り

糸に重りを付けたもので、部材から下げて垂直の成否を調べるのに使用します。

▼ 左より 紡錘型2点、砲弾型2点

